



花と平和の拠点として

学園長 廣瀬 薫

「花と平和」は「聖書、国際、園芸」を土台として歩む恵泉女学園のアイデンティティーの中核を表す言葉です。2023年1月28日、短大園芸生活学科が営まれた伊勢原キャンパスの売却を機に、「キャンパスお別れ会」が持たれました。その折に述べた挨拶をもってニュースレター第8号の巻頭言に代えさせていただきます。

感謝いたします。伊勢原キャンパスお別れ会3日間に、こんなに大勢の皆様が集まられたことに、園芸生活学科の思いは熱い、結束力は強い、と感銘を受けました。

学園史料室が、私に恵泉女学園の歴史を学ばせるために、そしてそこに込められた恵泉スピリットを私に吸収させるために、色々と本や資料をご紹介くださいました。おかげで、恵泉の歴史の中で園芸生活学科がいかに重要な位置を占めていたか、そして今中高でも大学でも土台に据えている建学の精神の柱である「聖書、国際、園芸」が、創立者の河井道先生以来、いかに独自のあり方で大切に育てられて来たか。それを今後も恵泉の柱として継承して行くことがいかに大切かを教えられてきました。今戦争がエスカレートし、人が大切にされない時代に、恵泉スピリットを大切にしていこうと、私は思い定めています。昨日妻が、わが家の子どもの幼稚園の先生は恵泉園芸生活学科の卒業生だったよと教えてくれました。心に印象深く残る人を、恵泉が育ててきたことを思いました。

あと6年で百周年を迎えます。長い年月の間に、建学の精神を維持しつつ、キャンパスの移転や学科の再編や教師の交代など様々な出来事がありました。皆様も、母校の色々な変化を見て来られたことでしょうか。実は私自身も、卒業した神学校が廃止されて大学院に統合される経験をしました。全寮制の神学校が移転再編された時は、自分が礼拝していたチャペルも、洗礼を受けた女子寮のお風呂も無くなり、寂しく思いました。しかし同時に、時代の荒波を越えて進む母校の変化を応援する思いも抱きました。

これまでの恵泉の歴史においては、皆さんの願いに沿わない出来事もあったと思います。申し訳ないことだったと、謝った方がいい出来事もあったと思っています。その上で、多くの同窓生が協力して恵泉の未来を拓くのでないと、この戦争が続く、恵泉への逆風の時代に、平和や人間尊重の光を掲げ続けての前進は困難です。ぜひ恵泉への応援をよろしくお願いいたします。

同窓生の皆様が、恵泉の94年間の、どの時期にどのように関わったかは色々であっても、その全ての方々にとって、今の恵泉女学園は「母校」として機能し、経堂あるいは多摩のキャンパスに来れば、懐かしく、心が休まり、新たな生きる力を得る源泉がある、「聖地」とでありたいと願っています。聖地は心の故郷として、離れていても、過去の美しい体験と共に人生を支える力を持っています。全ての同窓生の聖地として愛され続ける恵泉女学園を、これからも「花と平和」「聖書、国際、園芸」の拠点として建て上げていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



(旧)園芸短大キャンパスとのお別れ会(伊勢原市)



ICANバラは平和へのパスポート

「多摩市制50年記念 ICANバラ贈呈式」報告

柳井美代子

(花と平和のミュージアム実務委員会委員、中学・高等学校)

2022年7月24日パルテノン多摩にて多摩市平和展 ICANバラ贈呈式が行われ、中学から信和会役員2名が参加しました。核兵器廃絶国際キャンペーンにちなんで命名された「ICANバラ」は多摩キャンパスでも世田谷キャンパスでも立派な株に育ち、見事に花を咲かせています。この平和のバラが多摩市内の全中学校の代表生徒に託されました。川崎哲先生、サヘル・ローズさんの講演に続き、上村英明先生のコーディネートによる小中学生からの質疑応答とクロストークが繰り広げられ、大ホールが熱く盛り上がりました。

意見の違いを受けとめること、対話をする、関心を持つこと、平和人権活動のトップランナーの方々の言葉が心に響きました。非核平和都市宣言を掲げる多摩市は市政50周年です。次の50年間に世界の核兵器廃絶は実現するでしょうか。中学生がICANバラを通して受け取った「平和のバトン」が次世代にも引き継がれていきますように。

村井吉敬スライドコレクション・デジタル化作業室

写真資料のアーカイブと作業室の紹介

土屋昌子 (花と平和のミュージアム実務委員会委員 多摩図書館)

『エビと日本人』(岩波新書)や『小さな民からの発想—顔のない豊かさを問う』(時事通信社)の著者として知られる、東南アジア研究者村井吉敬先生が遺したスライドの詰まったキャビネットを、2020年3月南野キャンパスから大学のF棟221研究室に移設しました。この資料は、2014年のミュージアム開設時から村井吉敬個人アーカイブズとして整理が進められている資料群の一部です。撮影年代は1970年代半ばから2000年代初め、インドネシア各地で撮影された写真のスライドで、約4万5千点が残されています。アーカイブズのなかでも村井先生が最も大切にされていた資料として、先生を知る多くの方々からその整理と公開の必要が語りつがれてきました。先生が逝去されたときそのまま残されたキャビネットは、早稲田大学の研究室から当初、学園史料室の保管庫に移設され、その後南野キャンパスに移りましたが、ミュージアムコア施設(南野)の閉鎖に伴い大学の研究室の一室に収められ、同時に始まったコロナの時代、ここでコツコツとスライドのデジタル化作業が行われてきました。

スライドの中には、インドネシア関連の写真のほか、村井先生が内海愛子先生(恵泉女学園大学名誉教授)に同行した韓国や泰緬鉄道(太平洋戦争中1942-43年に日本陸軍によって敷かれたミャンマーとタイをつなぐ鉄道)への旅の写真なども含まれています。

モノ資料としてのスライドは、データ化によって長期保存が可能になり、公開・活用面で飛躍的な進展を見ることが出来ます。最近の例では『小さな民からの発想』の複製版が出されることになり、出版社の問い合わせを受けて、データ資料からいくつかの写真が使われることになりました。80年代に撮影された貴重な映像です。担当は、中島保男さんと伊藤孝喜さんです。中島さんはジャカルタで製版工場を経営されていたインドネシア在住歴40年のインドネシア通、写真データの扱いもプロ中のプロです。伊藤さんはミュージアム開設の準備段階から村井資料の整理を担当し、文献整理のほか村井先生の日誌やメモをもとに行動記録を作成してきました。これらは現在、スライド資料のデータベース化に必要なメタデータとなっています。

「花と平和のミュージアム」年譜・活動記録 & miniアルバム

2020年

3月18日 コロナ感染症拡大により「鉄の造形」見学会中止
1~3月 南野キャンパス売却によりミュージアムコア施設閉鎖。収蔵品撤収、移設。

3~10月 **バラ園移設。デジタル化作業室開設。**

4月 緊急事態宣言発令入学式中止

5月11日 大学春学期(オンライン授業)開始

7月 村井吉敬旧蔵スライドのスキニング作業を始める。

11月 「明治のたばこ王 村井吉兵衛」展(塩とたばこの博物館)

2021年

6月 恵泉多摩学「地域研究」村井スライド動画作成、紹介

7月31日~8月6日 伊丹市夏の平和パネル展協力
「二人の報道写真家が見つめた戦後 石川文洋&福島菊次郎」

8月6~11日 宮前区原爆展、武田美通(鉄の造形)作品展示協力

10月20~22日 福島菊次郎展(府中市)協力

11月7日 恵泉祭「みどりのせんそうほうき」紹介・作成・配布

2022年

2月 ウクライナ侵攻はじまる
「福島菊次郎個人アーカイブズの構築と資料活用に向けて」
恵泉女学園大学紀要第33号に掲載(土屋昌子・高橋清貴)

3月16日 ICANバラ10号鉢に鉢替え

5月28日 スプリングフォーラム「平和な世界の実現のためにできること」

6月 恵泉多摩学「地域から考える平和」ミュージアム紹介

7月24日 多摩市平和展 I C A N のバラ贈呈式&講演会参加
*武田美通作品(戦死者たちからのメッセージ)展示協力(8・9月)

8月20~21日 北区平和のための戦争展(町屋文化センターふれあい広場)

9月5~9日 川崎市高津区原爆展

9月17~19日 練馬区平和のための戦争展(ココネリホールイベントコーナー)

10月14日 バラ園ツアー2年ぶりに開催(恵泉会、園芸フォーラム参加者対象)

10月22日 モハメド・グナワン氏来日 国際文化会館にて「国際交流基金賞」
受賞記念講演

11月6日 恵泉祭展示 武田美通作品「戦死者たちからのメッセージ」with 恵泉

2023年

1月 「石井勇義と恵泉女学園、そして『実際園芸』のこと」
日本ツバキ協会発行 会誌「椿」61号に掲載(土屋)

1月28日 伊勢原キャンパスお別れ会セレモニー

1~3月 伊勢原キャンパス仮置き園芸図書資料を大学に移設。

3月23日 村井吉敬先生10周年記念シンポジウム共催(韓国YMCA)
作成動画「インドネシア・スンダ世界に暮らす」公開(伊藤・中島)

3月 練馬区立牧野富太郎記念庭園「拝啓 牧野富太郎さんへの手紙」巡回展

デジタル化作業室
ある日の打ち合わせ



今年もICANバラが咲きました。
@Keisen Wild Rose Garden

「みどりのせんそうほうき」は、戦争放棄を訴える手作りのミニほうき。恵泉卒業生、入江篤子さん考案の反戦活動です。ひとりで始めた行動ですが、人づてに伝わり、今では世界に広がっています。花と平和のミュージアムにも紹介されました。



武田美通制作 鉄の造形 “戦死者たちからのメッセージ” を
広める会の皆さんと 恵泉祭実行委員の学生たちが記念撮影
(2022年11月恵泉祭 展示会場にて)